

タイトル：

暮らすように、旅して、仕事して。23歳の旅人が越前海岸で体験したこと。



新型コロナウイルスにより、世界の流れが大きく変わった2020年。そんな社会の流れに流されて、私はフリーライターになった。場所に囚われなくなったことをきっかけに東京を離れ、越前海岸で2ヶ月間滞在させていただいた。

実家は岐阜県と、この地域とは、もともと縁もゆかりもなかった。しかし、様々な巡り合わせをきっかけに、この地に辿りついた。

ここでは、2ヶ月のお試し移住者が体験した出来事の一部として、滞在期間中に行った「2泊3日のワーケーション」についてお話ししたいと思います。



▲2ヶ月間の滞在拠点となった「ハウス長兵衛」。地域の空き家を活用しシェアハウスのように使われている。私の他に移住者2人と共同生活をした。

■地域のナリワイを体験した2ヶ月

福井県敦賀市杉津から、坂井市三国町安島に至る海岸線のことを越前海岸という。このうち、福井市に所属する「鷹巣」「棗」「国見」「越廼」「殿下」の5つの地区には、地区内の事業者が集う「越前海岸盛り上げ隊」というチームがある。

このチームの一員であり、私の移住期間中の案内役を担ってくれた志野雄介さんをきっかけに、この地域で様々なナリワイをする方々の元で、いろいろな体験をさせていただいた。らっきょうの植え付けやサザエ漁の見学、吹きガラスに SUP まで、本当にいろんなことをさせてもらった。

■地域内でワーケーション

そんな2ヶ月間の短期移住も、残すところあと半月。旅の思い出づくりと、まだ知らない越前海岸の地区のことを知ろうと、2泊3日、ハウス長兵衛を離れてワーケーションをした。越前海岸盛り上げ隊のHPでは、[「うみたん」](#)という、越前海岸エリアでできる体験プログラムの紹介ページがある。こちらを参考にスケジュールを立て、3日間を満喫する予定でいた。しかし、そんな予定も良い意味で覆す出来事ばかり起こった。

■交流拠点「はりいしゃ」改修工事のお手伝い

まずは志野製塩所で塩作り体験…と思いきや、開始1時間前に志野さんから電話が。

志野さん「あのお、今日はりいしゃの改修に人手が足りなくて、塩は後日にして今日は掃除手伝ってくれんか？」

急遽予定変更。越前海岸盛り上げ隊が地域にやってきた人々の受け皿として整備を進める古民家「はりいしゃ」改修のお手伝いをするに。



昔の家は、瓦の接着に土を使っていたようで、それが剥がれ、家の中には大量の土が。そんな古民家特有の土埃にまみれながら、私も段ボールを崩したり、ほこりを集めたり。微力ながら掃除のお手伝いをした。

自分が実際に手をかけると不思議と愛着が沸くもので、この場所の完成がより一層楽しみになった。



▲志野さん（右）と、越前海岸盛り上げ隊の隊長・長谷川さん（左）。この日は3人で作業。

■サテライトオフィスでお仕事



「はりいしゃ」の掃除を終え、サテライトオフィスへ。越前海岸には、福井市が運営する「越廼サテライトオフィス」があり、簡単な手続きをすると無料で利用できる。滞在期間中は仕事場として大変お世話になった場所だ。

昼食は FAN'S Kitchen さんでオムライスを取アウト。志野さんの作る「百笑の塩」と、たまごを使用した越前海岸ならではのふわふわのオムライスを、海を目の前に、仕事しながら食した。

■いただき膳福井・箆瓢草堂さんに宿泊

ワーケーション初日は越前海岸盛り上げ隊の一員で、お寺の住職でもある山田さん改め、黙譚^{もくだん}さんの農家民宿「いただき膳福井・箆瓢草堂^{たんびょうそうどう}」にお邪魔した。



箆瓢草堂のある八ツ俣町という集落には、なんと山田さんたちしか住んでいないそうだ。山田さんは集落の空き家を改修したり、自然農法で様々な作物を育てながら暮らしている。

この日は、お経体験をしようと思っていたが、山田さんがとある集落を案内してくれるとのことで予定変更。棚田が美しい秘境の地「梨子ヶ平」を見学した。



▲梨子ヶ平の棚田。崖沿いを車で行くと、谷間が突然現れる。海から見えない隠れ家として、戦いに敗れた平家の落人が暮らしていたという言い伝えも。

この集落にも山田さんの所有する空き家があり、棚田の景観を生かして何か新しいことをしようと考えているそうだ。食材にとことん拘ったパン屋さんがあったら最高だと山田さんは語る。

お話からは希望や可能性に満ち溢れた土地の魅力がビシビシと伝わってきた。

この地域がこれからどうなるのか、さらに楽しみになるばかり。



▲筆瓢草堂の食事は精進料理。素材の味を生かした滋味深い料理にとっても癒された。

■石丸水産で海釣りを教えてもらう

翌日、筆瓢草堂を出発し、朝からサテライオフィスで仕事。その後、「ホテル割烹・石丸」の海釣り体験へ。2ヶ月間、泳いでみたり、黄昏てみたりと、海の魅力は存分に楽しんだつもりだった。しかし、まだ釣りをしていなかったことに気づき、体験させてもらうことに。



夕方、空が少しオレンジ色に染まり始めた頃、石丸さんの息子・ハルト君と一緒にサビキ釣りをした。サビキとは防波堤から手軽にできる初心者向けの釣りの方法。オキアミをマキエカゴに入れ、上下に揺すり、海に餌を撒きながら魚が疑似餌に喰いつくのを待つ。



この波止場では小さなアジがたくさん釣れる。一度に3匹以上を釣り上げることもしばしば。ハルトくんの協力で大量のアジが釣れた。



釣った魚は石丸さんで調理していただく。今回は、特別に厨房に入れてもらった。プロの手捌きを真似ながら、小さなアジの内臓を一つ一つ取り出し、粉をまぶしてそのまま唐揚げに。頭から尻尾まで丸ごと食べられるよう、しっかり揚げられたアジを、ハルトくんと一緒にあっという間に平らげた。



▲ご飯に振りかけた「もみわかめ」もとても美味しかった。このわかめは、石丸さん自身が、採集、乾燥、瓶詰めなどの全工程を手作業で行っているそうだ。

・殿下のヌマにはまる

ホテル割烹・石丸を去り、2日目の夜は、殿下地区にある「農家民宿いちろべえ」

に宿泊。民宿のオーナー、堂下さん夫妻とその娘さんと、夜更けまで晩酌をした。

これがとても楽しかった。



農家民宿とは、農林漁業など田舎暮らしが体験できる民宿のこと。福島震災被災者を受け入れるプロジェクトを地域ぐるみで行っていたりと、他の地域から人を受け入れる文化が根付く殿下には、農家民宿が非常に多い。

旦那さんの堂下雅晴さんは殿下出身で、神奈川県からUターンをしてきたそうだ。旦那さんのUターンに合わせて、奥様、さらには二人の娘さん、そしてお孫さんまでもが共に殿下にやってきたそう。それぞれ異なる立場で移住をしてきたご家族の話は大変興味深かった。

■緊急開催「殿下ツアー」

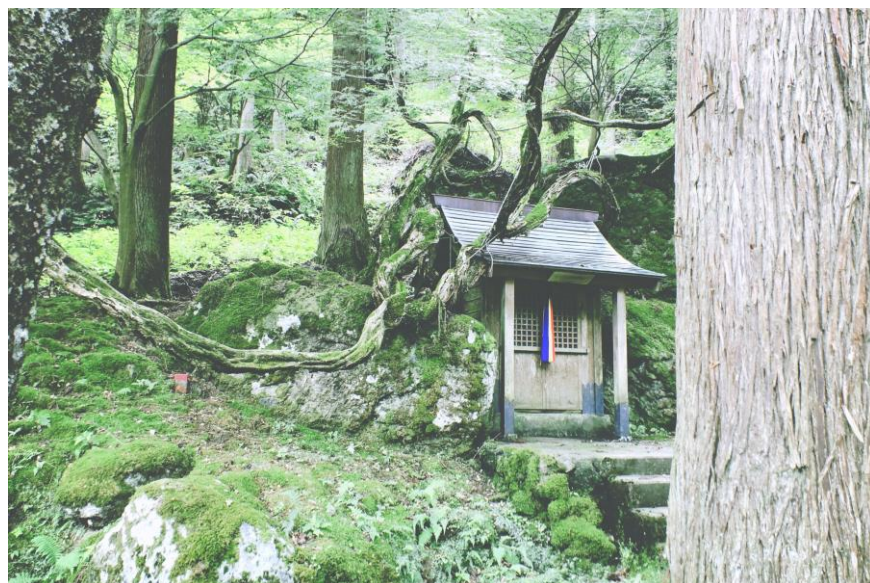
殿下は、越前海岸の中でも山側に位置しており、長兵衛ハウスからは距離があり、あまり訪れる機会はなかった。堂下家との会話で殿下に興味を持った私をみて、翌日、公民館で働く堂下さんの娘さん・ミクさんが、殿下のオススメスポットを急遽案内してくれた。（この日、本来は林業体験をする予定だったが、天候の関係で急遽中止になり時間が空いていたので助かった。）



▲ミクさんを訪ねて公民館の事務所へ行くと、たまたま来ていた地域のおじいちゃんから甘いシャインマスカットをお裾分けいただいた。職員さんが仕事をする事務所に地域の方がフラッと来てお喋りしている様子に、暖かい地域性が垣間見える。



▲オススメスポットその1：「武周ヶ池」。武周という集落の奥地にある大きな池。人の気配の無い山間を抜けた先に現れる池は、どこか違う世界にやって来たように錯覚させる。



▲池のほとりにある「武周ヶ池神社」。龍神様を祭る神社の周りに絡みつくように生える木が神秘的だ。



▲オススメスポットその2：山の水。車で越知山の山頂へ向かう途中、山の水を飲んで休憩。冷たくて美味しかった。吊り下げられた柄杓も可愛い。



▲オススメスポットその3：越知神社。車で登ること15分ほど。背の高い木々に囲まれた越知山の山頂にある神社。お話好きの住職が可愛かった。



昨日お会いしたばかりだというのに、ミクさんには本当に様々な場所を案内していただいた。

そしてこれ以降、今まで全然訪れたことがなかったのが嘘かのように、殿下に足繁く通うことになった。地域の「バトミントン&卓球大会」に出場したり、林業の見学、地域の若者の飲み会、忘れ物を取りに行くなどなど…。一気に殿下との距離が近くなった。一度踏み入れたら通いたくなる何かが、殿下にはあるのかもしれない。

■流れに任せ、巻き込まれてみることに



越前海岸を訪れる際には、スケジュールを予め決めておかなくても良いかもしれない。今回のワーケーションは、私が計画したスケジュール通りには正直全くならなかった。でもそれがかえってよかった。思い切ってスケジュールを無視した結果、新しい出会いや面白い発見のきっかけになり、大変貴重な経験ができた。

地域にはそれぞれ特有の時間の「流れ」があるのだと思う。その「流れ」に乗ることができたら、観光よりもずっと面白い「語れる旅」になる。器が大きく、横のつながりが深い越前海岸では、どんな人も地域の「流れ」に巻き込ん

で、その人にしか語れない思い出をきっと作ってくれる。

2ヶ月の滞在期間を終え、一度越前海岸を離れることにはなるが、私もまた必ず帰ってくる気がしている。

Fin.